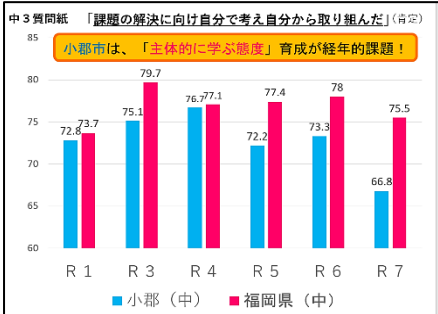


「主体的な学び」推進委員会通信

第4号
令和7(2025)年10月9日
小郡市教育委員会

開会挨拶 「小郡市の児童生徒の『主体的な学び』について」 小郡市教育長 秋永 晃生



味坂小・立石中 取組の共通項

■ 味坂小学校

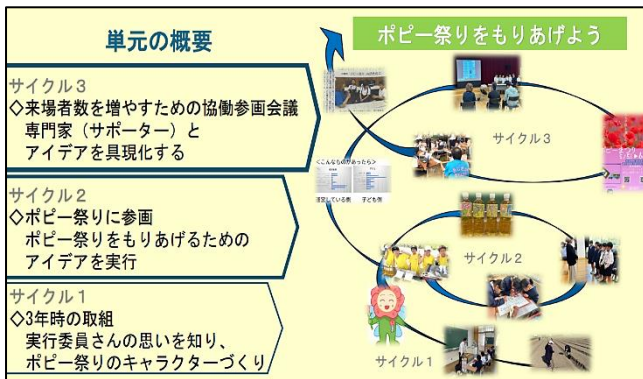
■ 立石中学校

- ### 味坂小・立石中 取組の共通項
- 1 「単元のゴール像」を子どもと共有
 - ◇ 単元の導入段階で明確な「目的意識」
 - 2 「振り返り」→『自己調整』を中軸
 - ◇ 改善方策・方向を「自己選択・自己決定」
 - 3 「端末の日常使い」が浸透・定着
 - ◇ 基盤：アウトプットに生きる資質・能力
 - 4 「共通理解・共通実践」の積み上げ
 - ◇ 「めざす学習」像を職員・子どもと共有

小郡市の子ども達の『主体的に学ぶ態度』育成は、経年的な課題です(シート左)。一方、本年度県学力調査質問紙結果では、改善の兆候が見えてきました。関連する各観点で、小郡市小中学校は、県の数値をそれぞれ上回ることができています(シート中)。特に、本日発表いただく、味坂小・立石中では、『主体性』の顕著な伸びが見られました。両校の四つの共通項(シート右)を観点に報告を聞いていただきたいと思います。

実践報告「STEAM教育・情報教育についての本校の取組」 味坂小学校 竹ノ上 隆成先生より

【報告の概要】味坂小学校では、実生活と結んだ「真正の課題」を重視して単元計画をデザインすることで、地域の方々といっしょに地域の課題を解決し、新たな価値を見いだす創造的な「学び」を目指しています。



実行委員さんとの協働参画会議～アイデアを実現するために～

4つのアイデアグループに分かれて、実行委員さんに提案

現実性	効果性	継続性
<p>【ポスター】 印刷の費用について 一市や実行委員会 主催者や作成者の明記 →これからすること</p>	<p>【お出かけマップ】 ポピー祭りについての 詳しく詳細を明記 →これからすること</p>	<p>【動画】 動画を流す場所を拡大 →これからすること PRの幅を広げる →これからすること</p>

新たな方向性を見出す子どもの姿

実践報告「『主体的な学び』の実現に向けた校内の組織的取組」 立石中学校 野田 聖弥先生より

【報告の概要】立石中学校では、「自己調整」をテーマに、目指す授業像や学びの姿を先生と生徒で共有しながら共通実践を行うことで、組織的に生徒の『主体的な学び』の具現化を目指しています。

授業像の共有

先生・生徒

生徒の学習の頑張りや、先生たちの目指す授業像を子どもにも伝える

先生の実践や研究主題に沿った内容の共有

- ### 〈共通実践〉
- 生徒が主体的に学ぶための題材や教具を準備する。
(わくわくする題材、選択肢の数、具体例や手本等)
 - 生徒が『今日のため』や『単元のゴール』を理解したうえで、
方法選択や内容選択をさせる。
 - 必ず学習の振り返りを行い、次時の目標設定や個人(グループ)のためを決める。

協議「児童生徒の ICT 活用と主体性に係る成果と課題を基にした、各中学校区における目指す『学びの姿』について」



【成果と課題を分析する様子】

宝城中校区

スタディ・ログや共有について子どもたちは効果を感じているが、子どもたちの主体的な活用に課題がある。振り返りは小学校からの積み上げが必要。目的を明らかにして活用させたい。

大原中校区

もう一度タブレット活用の目的を教師も子どもも明確にして、自己選択の機会を増やす必要があると感じた。制限をかけずに利用させ、その中で情報モラルを学ぶ機会にすることも大切。



【グループ協議の様子】

立石中校区

ICT 活用の数値は高いが、楽しさを見いだせていない。自分が必要な時に自分のタイミングで活用することができていなかった。授業だけでなく、係活動などでも自由に使わせたい。

小郡中校区

子どもたちがタブレットを使っているという実感をもたせきれていない。原因として、活用場面を教員が指示をして使わせていることが多かった。子どもに選択させる機会を増やしたい。



【全体で共有する様子】

三国中校区

校区の特徴として、自分の考えがうまく伝わるよう工夫することが共通して低かった。授業を工夫して埋もれてしまう子がいないようにアウトプットの機会を増やしていきたい。

協議を終えて

これまでの協議では、ICT をどのように活用するか、教師間格差を解消するための手立てなどの活用推進が中心でしたが、今回の協議では、子どもたちが自己選択・自己決定する上での課題や ICT を文房具のように自由に活用させるタブレットの「日常使い」（教師の指示によるのではなく、子どもが使いたい時に使いたい方法で使いこなす）についての話題も多くありました。これは、従来の授業にどのように ICT を活用していくかという初期段階から、小郡市が目指す「子ども主体の学び」に向けた授業観の転換に挑戦しようとする意識の高まりであり、本市では、「NEXT GIGA」に進み出したものと考えています。 小郡市教育委員会 指導主事 小島・岡嶋

ICT
活用

授業観
の転換

参加した先生からの感想（ポートフォリオより一部抜粋）

- 2校の実践報告を聞いて、「主体的に学ぶ」姿を具体的に理解することができた。ゴール像をもたせ、自己選択・自己決定する場をもっと設定しなければと思った。
- 立石中の発表からは、異学年交流学习や、自主学习ノートに趣味のことも書いてよいこと、家庭で振り返りシート（「サクセスシート」）を記入していることなど、新たな視点を得ることができた。【中学校 ICT 推進委員】
- 今の子どもたちは、自分で自己選択をしながら学習をする場面は増えてきているように感じるが、今日の学習で何を学んでいるのか考えている子が少ないように感じる。導入場面での課題のもたせかたは大切だが、振り返りから次の時間の課題をもたせることも大切だと感じた。【小学校研究主任】
- ICT の活用については、年々伸びてはいるものの、課題が残る結果となった。教師が使うのではなく、子どもが使うようにしていくためにも、ICT 推進と連携をしながら、改善が図れるようにしていきたい。【小学校研究主任】
- 苦手であったり意欲がなかったりする児童にとっては、できる子に任せてしまい、自分では表現しなくても済んでしまう（済むような授業をしてしまう）現状があるため、その点を改善していく必要がある。【小学校主幹教諭】
- これからはAIも発達してくると思うので、集団で比べるというところから脱して、個の成長を見取るような分析ができないかと思います。具体的には、4年生の時の標準学力と5年生の県学力を比較して、伸びた子が何パーセントのような分析ができないかと思います。【小学校研究主任】